

令和五年度思考型特別選考試験

試験問題

試験Ⅱ

受験上の注意

- 一、答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 二、問題は九ページあります。
- 三、試験時間は六十分です。
- 四、解答に字数制限がある場合、句読点・  
符号は一字と数えます。

三重中学校

受験番号

〔二〕 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

短歌を作ってみようかどうか迷っている人を前にして、歌人がよく言う励ましの言葉に、

「大丈夫よ、見たまま感じたままを表現すればいいんだから」

というのがあります。思い返せば、私も何度か口にした記憶があります。

でも、あるときふと、「見たまま感じたまま」って本当はどういうことなのだろう、と疑問を感じてしまいました。だいたい、一息に「見たまま感じたまま」と言いますが、「見たまま」と「感じたまま」では天と地ほどの隔たりがあるのではないのでしょうか。

たとえば、次のような歌があります。

冷水に八つの角の冴えざえと豆腐がありぬ朝の厨くりやに

吉川喜代美『風の指紋』

厨は台所のことです。ボウルの中の冷水に豆腐がひたされています。朝のさわやかさと豆腐の白さが呼応して、すがすがしい印象を与える歌です。

私は、たまたまこの『風の指紋』という歌集について批評を交わす会に出席していました。

そのとき、ある人から、

「豆腐は水に入っているのに、どうして角が八つ見えたのですか。せいぜい四つか五つしか見えないと思いますか……」

という質問が出ました。

なるほど。一番奥の角はどうしても見えないはずですが。指摘されるまで私は気が付きませんでした。直方体だから角は八つ、と頭の中で思い描いて、何の疑問も持たずに読んでいたのです。ひよつとして作者も実物をよく見ずに想像だけでうたったのかな、とチラリと思いました。ところが、作者は、

「いいえ、八つ見えました。実物をちゃんと見て作った歌ですが、私には角は八つ見えました」

と明言したのでした。その後、私たちの間でしばし意見が飛び交いました。そして最終的に、私は「角は八つでいいんだ」と納得するにいたりました。物理的には八つは見えないかもしれない。でも、朝の光に包まれて冴えざえと冷えている豆腐を目にしたとき、作者は一瞬、見えないはずの角まで透視できてしまったのではないのでしょうか。そう考えたのです。そう解釈した方が、この歌はずっとすぐれた作品になります。

冷水に四つの角の冴えざえと豆腐がありぬ朝の厨に

では、単に「事実」を写し取っただけの短歌です。「見たまま」の歌と言えます。でも、

冷水に八つの角の冴えざえと豆腐がありぬ朝の厨に

とすると、これは「真実」をつかみ取った短歌になっていると思います。「見たまま」に「感じたまま」というプラスアルファが付いて、この日この時この作者にしか作れなかった二首へと変貌しています。

事実をきちんと踏まえてうたうことはもちろん大切ですが、その上でさらにもう一步対象に詰め寄って、真実とじかに向き合おうと努めること——それが結果的に作品に臨場感をもたらすことになるのだと言えます。

(栗木京子『短歌を楽しむ』岩波ジュニア新書)

問 筆者は「私は『角は八つでいいんだ』と納得するにいたしました」とありますが、あなたは「冷水に八つの角の冴えざえと豆腐がありぬ朝の厨に」と「冷水に四つの角の冴えざえと豆腐がありぬ朝の厨に」のどちらの表現がよいと思いますか。その理由を明らかにして説明しなさい。

【二】 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

作者の気持ちをぐっと込めるときに、結句は大きな働きをします。もちろん初句から結句までのどの箇所にも気持ちを込めることは可能ですが、結句に着目すると、とりわけ有効に思いを託すことができます。短歌を詠む以上は、自分の思いをできるだけしっかりと相手に伝えたいものです。たとえ伝わらなくても、自分自身の気持ちと向き合って、何かと言葉に表してみようとすることはとても大事。そこで、ここでは結句に思いを込める表現方法に親しんでみましょう。

いつまでも雲は流れてゆくだけで夏の終わりはさみしすぎるね

(小島なお『乱反射』)

季節の変わり目には、いつも名残り惜しさを感じるものですが、夏の終わりは特に心にぽっかり穴の開いたような気分になります。この歌を詠んだとき作者は十代の学生でしたから、夏休みが終わってしまう寂しさも大きかったことでしょう。夏の入道雲から秋の罫雲へ変わる雲に託して、過ぎてゆく青春の日々への思いも伝わってきます。

夏の終わりを見送りながら、作者は「さみしすぎるね」と結句でつぶやきました。さあ、あなたなら結句でどのように感じたり行動したりしますか。しばし心を空っぽにして想像しましょう。いくつか例をあげてみます(上句は省略して、ここでは四句と結句だけ記してゆきます)。

……夏の終わりは走りたくなる

……夏の終わりは「おーい」と呼ぶよ

……夏の終わりは旅に出掛ける

行動派のあなたは雲を追い掛けて走ったり、「おーい」と呼び掛けてみたり、旅に出たりします。いかにも若々しくて、いいですね。

対照的にセンチメンタルなあなたなら、

……夏の終わりは涙こぼれる

……夏の終わりはモーツァルト聞く

……夏の終わりは詩集をひらく

と、いつそう孤独に沈み込みそう。これもまた、やってくる秋にふさわしい抒情性を漂わせる結句です。

……夏の終わりは猫抱きしめる

……夏の終わりは母に甘える

あるいはまたこのように、誰かとの触れ合いを求めなくなるのも、夏の終わりの独特の心の動きと言えましょう。

そして一番のお勧めは次のフレーズでしょうか。

……夏の終わりは君に恋する  
雲は流れ去ってしまうけれど、君と私の恋はどんどん深まってゆくんだ。そんな一途いちぢうさがあふれていて、いいなと思います。

悲しすぎるときには……

では、この作品はどうでしょう。

秋草の直立すくたつ中にひとり立ち悲しすぎれば笑いたくなる

(道浦母都子『ゆうすげ』)

「直立すくたつ」は真つすぐに立つことです。作者は秋の草木が生い茂っている野にひとりでたたずみ、悲しみに耐えています。そのうちに自分も一本の草になったような気がしてきたのでしょう。ささやかな自分、でも秋草のようにピンと直立している自分。そんな自分が不意いひに愛しくなつて、結句で「笑いたくなる」と表したのだと思います。「悲しすぎれば笑いたくなる」は一見すると複雑そうですが、何度も読み返すうちにじわりと共感きかんが湧いてくる表現です。

結句「笑いたくなる」の箇所を皆さんならどう表しますか。それほど悲しい目に会ったことのない人もいつしよに考えてください。

……悲しすぎればジュースがぶ飲み

……悲しすぎれば食欲が湧く

……悲しすぎれば眠たくなるよ

なんて詠んだ人は、かなりの大物。悲しみを乗り切るには体力が要ります。そのために栄養と睡眠が不可欠だ、というわけです。

……悲しすぎればわーわーと泣く

……悲しすぎれば怒りはじめる

……悲しすぎれば叫さけびたくなる

……悲しすぎれば暴あんなりれたくなる

こちらはとても率直えんりですね。どうぞ遠慮えんりなく泣いたり怒ったり暴れたりしてください。無理をして優等生のようにふるまう必要はありません。ごまかしたり背伸びしたりせず、自分のそのときの気持ちに正直になること。そして正直な気持ちにふさわしい言葉で表現すること。それが最も重要です。今はその練習をしているところですから。

皆さんの中には、ひよつとすると、

……悲しすぎれば死しにたくなるよ

と思った人がいるかもしれません。「こんなふうに詠んではいけませんか」と問われたら、私はしばし

考え込みます。死んでしまうのは絶対にいけません。どんな理由があろうとも命を絶つてはだめです。それは迷わずはつきり言えます。ただ、「悲しすぎれば死にたくなるよ」とそのとき切実に感じたなら、短歌の表現としてそう詠んでもよいのではないかと思えます。

そして、その上でちよつと考えてみてほしいのです。悲しくてやりきれなくなる心を短歌で伝えるとき、「死にたくなるよ」の他にももっと違った表現があるのではないかと、言葉というのは驚くほど多彩たさいです。だから、ひと言で決め付けてしまうのはもったいない気がします。絶望を詠んだとしても、

……悲しすぎれば心が縮む

……悲しすぎれば迷子のころ

……悲しすぎればわたしは化石

たとえばこんなふうに表示してはどうでしょう。つらい気持ちをほんの少し客観的に見つめるだけで、歌に奥行きが生まれます。弱い自分を隠すのではなく、じっくりとのぞきこみながら詠むことよって、自分の心と新たな出会いができるのです。

(栗木京子『短歌をつくらう』岩波ジュニア新書)

問 あなたなら「秋草の直立つ中にひとり立ち悲しすぎれば」(「の」)に

どのような言葉を入れますか。

【三】 「一」と【二】の問題文は短歌のつくり方についての文章でした。それぞれの問題文の中に出て

きた表現を参考にして短歌を二首つくりなさい。ただし、次にあげる条件にしたがいなさい。

条件1 「楽しい(うれしい)気持ち」「さみしい(悲しい)気持ち」を詠んだ短歌を二首ずつつくること。

条件2 四句めは「もうすぐ○○○○」の形にすること。

( 初句 ( ) 二句 ( ) 三句 ( ) 四句 ( ) 結句 ( )  
○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

条件3 「空」「みかん」「ランドセル」「自転車」の中から二首につき二つ言葉を選んで使用すること。

〔四〕 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

昔、日本海軍で行われた面接試験では、意味の分からない質問があったそうです。面接会場に入ると「ここへ来るまでに階段を上がってきたと思うが、全部で何段あったか」とか「面接会場に貼ってあった注意書きを読んだと思うが、誤字脱字がいくつあったか」とか。なかには「ここに六つの菓子があって猿が五匹おる。菓子が一切手を触れず、五匹の猿に菓子を平等に分け与えるにはどうすればよいか」という質問もあったそうです。いさぎよく大きな声で「わかりません」と答えると、試験官が「そうか、では教えてやろう、これはな、六ツかしごぎる、というんだ」と。こんなダジャレまで、まじめな顔で出題されていたとのこと。

東大の木村尚三郎教授が、私にとって大変興味ある発言をしておられた。

フランスにENAという学校がある。エコール何トカ何トカ、エリート官僚の養成を目的とするフランス一むつかしい学校だが、ここの卒業口述試験には、時々珍しい問題が出る。

例えば

「ウイーンにおけるドナウ河の水深を問う」

然るべき数字など挙げてみても、ろくな点はもらえない。いやしくもENAを卒業するほどの学生に期待されるのは、もう少し別の知恵だ。

これにもし、百点満点の模範解答ありとすれば、

「御承知の通り、ドナウ河は約八キロにわたってウイーン市内を東へ流れております。どの地点の水深をお答えすればよろしいでしょうか」

と、問題を逆手に取って試験官をやりこめた場合であろうと。

余談だが、ドナウはいい河だ。西南ドイツの森の中から流れ出て、オーストリア、チェコ、ハンガリー、ユーゴスラビア、ブルガリア、ルーマニアの山野をひたし、全長二九〇〇キロ、ソ連領で黒海にそそぐ。いい河だけれど、ヨハン・シュトラウスのワルツ「青きドナウ」で、青々とした流れを想像していたら大まちがひ。

斎藤茂吉の「ドナウ源流考」、ドナウエシングンの近くまで遡れば、多少清流らしくなるけれど、ウイーンやリンツあたりで見えるドナウは、滔々たる大濁流、「ドナウ河は恋をしている人にだけ青く見える」という説がある。



しかし、濁流であろうとなかろうと、ヨーロッパの人々にとっては、興亡何千年の歴史と切っても切り離せない大河で、思いがこもっているから、ENAの試験官が「ウィーンにおけるドナウ河の水深」などという問題を考えつくのだろう。

それにしても、彼らの学生テスト法と、日本海軍の口述試験のやり方と、どこか似ているのを感じる。海軍のは、もともとヨーロッパからの輸入ダネではなかったか。つまり、~~EN~~だけでなく、フランスだけとはかぎらず、西欧知識階級の中に、人の意表を突くこういうテストの仕方が、伝統としてあったのではないか。在外アタッシエたちが、何かの機会にそれを知り、

「こいつは面白いや」

と本国へ伝えたのが、だんだん日本流にかたちを変えて、「六ツかしごさる」まできたのではあるまいか。

私の憶測にすぎないけれど、ギリシャ彫刻だって日本の仏教美術に影響を与えているんですからね。そのつもりで調べてみると、この種試問の例がほかにも存在する。

東大工学部船舶工学科の学生が、海軍の造船士官を志す場合、試験はかなりの難関だが、ある年、

「<sup>アリ</sup>蟻の歩くスピードは何ノットか」

と聞かれたのがいる。これなど、「ドナウ河の水深」にそっくり、数字では駄目、試験委員の方は、

「  
」

誰かそう言う奴がいなかったと期待していたことだろう。

同じ造船科士官志望の学生で、

「君の満年齢、正確には何年何カ月か」

と聞かれ、

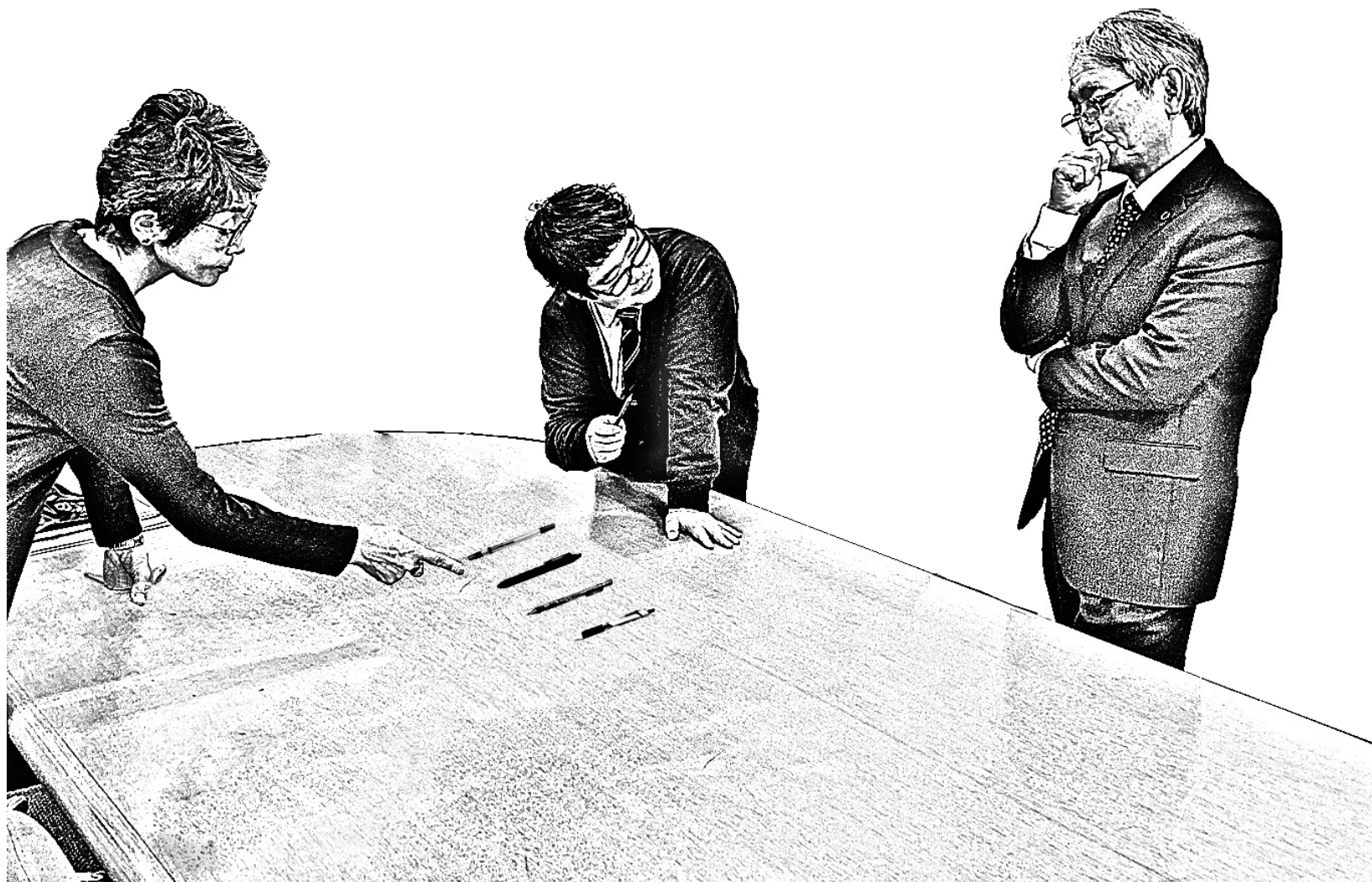
「はいッ、こればかりは時々刻々変わっておりますので、お答えできません」

と答えて、好成绩で採用された人がいるのである。

(阿川弘之 『海軍ごぼれ話』 光文社文庫)

問 空欄に入るべき学生の答えを想像して書きなさい。

【五】 左のイラストを言葉で説明しなさい。



問題以上です。



